

令和5年度事業報告

1 概況

(1) シルバー人材センターを取り巻く環境

我が国の65歳以上の高齢者人口は、1950年以降、一貫して増加していましたが、2023年9月15日現在の推計では3623万人と、前年の3624万人と比べ1万人の減少となり、1950年以降初めての減少となりました。一方、総人口に占める割合は29.1%と、前年の29.0%と比べ0.1ポイント上昇し、過去最高となりました。また、いわゆる「団塊の世代」（1947年～1949年生まれた方）が2022年から75歳を迎えていることから、75歳以上の後期高齢者人口が、前年に比べ72万人増加したことにより、初めて2000万人を超えました。更に、総人口に占める80歳以上の割合が10.1%、即ち10人に一人が80歳以上となっており、超高齢社会が益々深化しています。

高齢化率の上昇と相俟って、高齢者の就業者数についても、2004年以降増加し続けており、2022年には912万人、就業率25.2%と、主要7か国の中でも高い水準となっています。また、高齢者の就業年齢内訳では、70～74歳の就業率が過去最高となるなど、前述した深化し続ける超高齢社会の影響が色濃く反映しているものと考えられます。一方、就業希望高齢者の希望職種については、男性では「専門的・技術的職種」が最も多く、女性では「サービス業職種」が最も多いとされており、現役時代に培った知識・技術等を生かしたという高齢者が増え、これまでの高年齢就業者像とは異なる様相を呈しています。このことから、今後、我が国においては、単に高齢者を雇用するだけに留まらず、現役時代の知識・技術等を生かせるフィールドを確保していくことが肝要であると言われてしています。

我が国経済については、コロナ禍の3年間を乗り越え、緩やかながらも回復しつつあります。また、30年ぶりとなる高水準の賃上げや企業の高い投資意欲など、経済に前向きな動きが見られ、デフレから脱却する千載一遇の好機を迎えていると言われてしています。しかしながら、他方で賃金上昇は輸入価格の上昇を起点とする物価上昇に追い付いていないことや、個人消費や実際の設備投資が、依然として力強さを欠いている状況にあることなどから、これを放置すれば、再びデフレに戻るリスクがあると言われてしています。また、潜在成長率が0%台の低い水準で推移していること、海外景気の下振れリスク、物価動向に関する不確実性の存在や、金融資本市場の変動の影響等には十分注意する必要があるとも言われおり、加えて本年1月に発生した能登半島地震の影響など、景気の回復にまだまだ不確実な要素を孕んでいるものの、令和6年2月22日に東京株式市場において、日経平均株価が34年ぶりにバブル期越えとなる史上最高値を更新するなど、今後の経済の好循環に対する期待が高まっています。

こうした中、全国のシルバー人材センターの事業実績については、回復の兆しは見られるものの、コロナ禍前の実績までには取り戻されておらず、また、定年延長等の影響から会員数の減少傾向に歯止めが掛かっていない状況にあります。これらのことに加え、令和5年10月にはインボイス制度（適格請求書等保存方式）が施行され、また、本年秋には特

定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律（所謂、フリーランス新法）の施行が予定されているなど、先行き不透明感が更に強くなっているため、今後のセンター事業の運営については、経営基盤の更なる強化とともに、極めて慎重な舵取りをしていくことが求められています。

当センターの令和5年度実績については、契約件数については14,128件で前年度対比約2.5%減、契約金額については約13億3,200万円です。これは、前年度に引き続いて公共自転車駐車場（東上線・志村エリア）の指定管理者制度導入に伴う機械化、就業方法のデジタル化の促進による会員配置人数・就業時間数の減少、植木・表具等の深刻な職人（後継者）不足、家事援助サービスの依頼がコロナ禍前に戻っていないことが主な原因とみられています。

一方、労働者派遣事業については、好調で、実績が前年度より飛躍的に上昇しており、契約件数は令和4年度の126件に対して令和5年度は194件と約154%増、契約金額については前年度対比約157%増の、約9,230万円と大幅に増加しました。受注が拡大した背景には、板橋区内の認可私立保育園園長会での事業PR活動を行ったことによる受注件数の増加や、昨年度から実施されている産業振興公社や信用金庫との連携が区内事業者徐々に浸透してきたことによる依頼の増加、東京しごと財団就業推進担当係からの支援によるスーパーマーケット、保育関係等の受注件数の増加などが要因に挙げられます。

他方、全国的に伸び悩む新入会員確保については、当センターにおいては前年度に引き続き多様な区民のライフスタイルを考慮した土日祝日の開催、区界や人口が集中している地域における出張開催、また、女性会員増強を狙った保育セミナーを兼ねた説明会、更にスーパーマーケット、植木・除草職の希望者向けの職種別開催など趣向を凝らした様々な入会説明会を実施するとともに、年度末（3月）入会者の会費を免除にするなど様々な工夫を行った結果、新規会員数は451人増加し、会員数が3,011人と前年度より41人増加しました。

また、令和5年度はセンターの社会的価値を更に高めるという理念の下、板橋区と共催し、東京家政大学・東京都健康長寿医療センターの研究者を招聘し、「生きいきとしたシニアライフを過ごすために」をテーマとしたセンター初の試みであるシンポジウム及び高齢者に必要な高栄養・高たんぱく食の試食イベント並びに、板橋区演奏家協会所属の弦楽四重奏によるミニクラシックコンサートを開催いたしました。イベントは会員、一般区民等多くの参加者から高評価を得ました。

次に、センターの財務状況については、今年度においても収入・支出の見直しを図り、令和5年10月から施行されたインボイス制度への備えと諸物価高騰に対応するため、事務比率の見直しを図り事務費収入が増加しました。また、支出については、今後のセンター事業の就業開拓や会員増強に繋げるための広報・普及活動の経費について増加しましたが、その他のあらゆる諸経費等の節減に努めた結果、当期の正味財産増減額は4,500万円余の増加となりました。

以上が令和5年度のセンター事業における概況となります。

(2) 安全就業の状況

令和5年度の東京都内全シルバー人材センター統計においては、傷害事故は664件で前年度より46件増加しています。このうち4件は死亡につながる重篤事故でした。一方、賠償責任事故は186件と前年度より16件減でした。

板橋区シルバー人材センターにおいては、引き続き安全就業巡回や、それに付随する研修会、委員会・連絡会活動、広報誌を活用した会員への啓発活動などを積極的に行ったものの、傷害事故発生件数は29件と前年度より1件増加しました。これは、就業会員の高齢化率の上昇に伴う体力の低下が原因と考えられます。なお、このうち2件は派遣就業による労災事故でした。一方、賠償事故については9件と前年度より3件の増加となりました。

シルバー人材センター事業において安全就業は、何よりも優先されるべきものです。そのため、今後もより一層会員への啓発活動などを積極的に実施し、事故件数の減少に努めてまいります。

2 会員の状況

会員の増減と就業率

令和6年3月31日現在の会員数は3,011人、平均年齢は75.3歳、最高齢は97歳です。60歳以上の板橋区民に対する会員の割合は1.8%となっています。

令和5年度の実業人員は2,298人で前年度対比32人の増、会員数に対する就業率は76.3%で前年度と同じ割合となり、就業者の平均年齢は76.0歳、就業者の最高齢は96歳です。

退会者410人の退会理由については、会費未納112人、病気90人、加齢68人、就職36人、死亡24人、その他転居等による退会者が80人となっています。

令和6年3月31日現在

区 分	男性 〔人〕	女性 〔人〕	合計 〔人〕	参考 板橋 区民	就業実人員内訳			
					就業 実人員 〔人〕	年 齢 階級別 就業率 〔%〕	合計に 対する 構成比 〔%〕	
年 齢 階 級 別 会 員 数	60歳～64歳	39 (40)	46 (40)	85 (80)	31,249 (30,688)	40 (41)	47.1 (51.3)	1.7 (1.8)
	65歳～69歳	195 (233)	172 (176)	367 (409)	26,777 (26,871)	230 (251)	62.7 (61.4)	10.0 (11.1)
	70歳～74歳	569 (603)	390 (414)	959 (1,017)	29,925 (31,993)	714 (763)	74.5 (75.0)	31.1 (33.7)
	75歳～79歳	635 (628)	388 (355)	1,023 (983)	28,009 (27,257)	825 (795)	80.6 (80.9)	35.9 (35.1)
	80歳以上	388 (328)	189 (153)	577 (481)	46,886 (45,540)	489 (416)	84.7 (86.5)	21.3 (18.3)
合 計	1,826 (1,832)	1,185 (1,138)	3,011 (2,970)	162,846 (162,349)	2,298 (2,266)	76.3 (76.3)	100 (100)	
平均年齢〔歳〕	75.7 (75.2)	74.6 (74.4)	75.3 (74.9)		76.0 (75.7)			
入 会 者〔人〕	235 (212)	216 (166)	451 (378)	入会説明会参加者	574 (504)			
退 会 者〔人〕	241 (320)	169 (178)	410 (498)					
※退会理由：会費未納112人 病気90人 加齢68人 就職36人 死亡24人 その他転居等80人								

※（ ）内は前年度実績

※〔参考〕板橋区民は令和6年4月1日住民基本台帳による。

3 組織運営の状況

会員参画による組織運営の活動状況は次のとおりです。

(1) 総会・理事会の開催

①定時総会 文化会館 大ホール

第13回 令和5年6月21日 会員数3,040名

(出席者217名 委任状1,453名 議決権行使626名)

②理事会の開催 13回

(補正予算案他を審議)

③監査の実施

令和5年5月11日 公認会計士による監査

令和5年5月15日 監事による監査

(2) その他の機関・組織の活動状況

会員参画による事業運営を次のように行いました。

①安全管理委員会	3回
②広報委員会 会報誌「生きいき」の作成検討	5回
③衛生委員会	12回
④地区リーダー会議	5回
⑤地区懇談会 延245人出席	21回
⑥有料自転車駐車場リーダー会議	4回
⑦その他グループ会議等 植木職、除草職、表具職、シニアエアロビクス	

4 就業等の機会確保及び提供

就業等の機会確保及び提供に関する状況は次のとおりです。

(1) 事業収入状況等

事業収入は1,332,437,736円で前年度に比べ、55,475,267円の減となりました。

そのうち公共の事業収入は566,717,511円で前年度対比52,442,147円・10.2%の増、企業等は618,944,498円で前年度対比104,639,301円・14.5%の減、個人は146,775,727円で前年度対比3,278,113円・2.2%の減となりました。公民比率ですが、公：民=42.5：57.5となっています。

なお、新規依頼に際しては、雇用とみなされる恐れのあるものは、シルバー人材センター等労働者派遣事業で対応し、安全に就業できるものであれば、業種、希望を問わず、可能な限り幅広く受注しました。

令和5年度事業収入等の内訳

	公 共	企 業 等	個 人	合 計
事業収入 (円)	566,717,511 (514,275,364)	618,944,498 (723,583,799)	146,775,727 (150,053,840)	1,332,437,736 (1,387,913,003)
配分金収入 (円)	507,643,144 (481,930,158)	544,231,467 (663,494,106)	116,847,509 (116,513,769)	1,168,722,120 (1,261,938,033)
材料費等収入 (円)	1,678,909 (1,875,799)	485,652 (400,789)	8,676,132 (16,485,162)	10,840,693 (18,761,750)
事務費収入 (円)	57,395,458 (30,469,407)	74,227,379 (59,688,904)	21,252,086 (17,054,909)	152,874,923 (107,213,220)
契約件数 (件)	1,740 (1,722)	5,918 (5,907)	6,470 (6,860)	14,128 (14,489)
延日人員 (人)	88,319 (86,243)	140,968 (157,279)	25,074 (27,557)	254,361 (271,079)

※ 収入・件数には独自事業も含んでいます。※ () 内は前年度実績

(2) 独自事業の状況

独自事業の実績については、次のとおりです。

ソーイング事業は、区民まつり、農業まつり等のイベント参加により、販売点数こそ145点の減となりましたが、事業収入は前年度対比4.8%の増となりました。

シニアエアロビクス教室事業は、回数、参加人数ともに増加し、事業収入は前年度対比26.5%の増となりました。

木工クラブ事業は、ソーイング事業と同様イベント参加により、事業収入は前年度対比6.6%の増となりました。

①ソーイング事業

就業会員14人

小物作り、お直し、オーダー等点数 1,301点 2,409,158円

(参考：令和4年度 1,446点 2,298,218円)

②シニアエアロビクス教室事業

インストラクター就業会員18人 教室283回 延5,974人参加 1,446,976円

(参考：令和4年度 教室269回 延5,145人参加 1,143,416円)

③木工クラブ事業

就業会員11人 木のおもちゃを製作、販売 516,825円

(参考：令和4年度 484,800円)

(3) 日常生活支援総合事業

専任のコーディネーター2名を配置し、事業PR、会員研修並びに就業支援を実施。

事業活動報告（開拓・PR）

- ・区内おとしより相談センター（地域包括支援センター）を適宜訪問しました
- ・区内全事業所連絡会会員となり事業所間連携の強化に努めました

- ・区内地域包括支援センター職員に就業会員向け研修講師を依頼し、センター及び会員理解促進を図りました

(4) 労働者派遣事業

令和5年度は、前年度に引き続き私立保育園園長会での事業PRを行ったことと、東京しごと財団就業推進担当の支援により、私立保育園やスーパーマーケットから業務依頼が増加しました。また、前年度より構築された板橋区産業振興公社や信用金庫との連携関係により幅広い職種で仕事を受注し、就業を実施した結果、契約件数・延日人員・契約金額は大幅に増加しました。

契約件数194件 延日人員15,523人 契約金額92,347,150円

(参考：4年度 契約件数126件 延日人員10,997人 契約金額58,760,795円)

(5) 社会貢献・ボランティア活動状況

ボランティア活動の実績は、次のとおりです。

- ①「いたばし子ども見守り隊」 年間活動延人員91人
- ②東京マラソンランナー応援イベント2024観客案内 4人

5 就業機会の適切なコーディネートと公平化

就業機会の適切なコーディネートと公平化に関する取組は次のとおりです。

(1) 就業相談の実施

会員の就業機会を的確かつ効率的に拡大するため、特に就業希望者登録説明・選考会を引き続き実施しました。

- ①事務局内において来所者に対する就業相談 常時
- ②個別就業相談会 5回(5, 8, 10, 12, 2月) 相談者 延12人
- ③就業希望者登録説明・選考会

(有料自転車駐車場・学童擁護・施設管理・自転車放置防止業務・事務派遣業務・保育補助・スーパーマーケット・植木・除草)

延19回(5, 8, 10, 12, 2月) 参加者 延163人

(参考：令和4年度参加者 延175人)

(2) 就業機会の公平化と長期就業を是正するための就業期間制限

①対象職種

地域センター 児童館 小学校来校者受付 地域集会室
有料自転車駐車場 自転車保管所 ウェルネススペース

②実施状況

定年 12人
職種グループ内就業期間満了 33人
同一就業場所就業期間満了(施設間異動) 21人

- ③その他 学童擁護(交通安全指導)については順次、複数体制に移行

6 会員の安全対策

前年度に引き続き、令和5年度においても就業中や行き帰りの事故が多く発生しています。「安全就業手帳」を配付することで安全意識の向上に努めました。また転倒予防教室、普通救命講習を実施し健康意識の向上を支援しました。更に、全会員に対して感染症対策グッズを送付しました。

- | | |
|--|-----------------|
| ①安全管理委員会 | 年3回 |
| ②「安全就業手帳」配付 | 2,500部 |
| ③入会時に「安全10カ条」パンフレット配付 | |
| ④ミニ転倒予防教室 | 地区懇談会21地区196人参加 |
| ⑤普通救命講習 | 2回 24人参加 |
| ⑥会報誌「生きいき」に毎号「安全通信」を掲載 | 年5回 |
| ⑦安全就業用被服の貸与 | |
| ⑧熱中症対策グッズの配付 | |
| ⑨感染症対策グッズの送付
(マスク、アルコール配合クリーム、除菌シート他) | |
| ⑩脚立を点検 | |
| ⑪安全管理委員・支援員の安全就業巡回(夏季・冬季) | 11人81カ所 |

7 会員に対する研修

会員の資質の向上を図るため、以下の研修を実施しました。

- | | | |
|---------------------------------------|---------|---------|
| ①入会説明会・接遇研修 | 4～3月 | 574人参加 |
| ②会員研修「非行防止・トラブル防止」 | 2月 6回 | 889人参加 |
| ③植木剪定研修 | 1～3月 | 延70人参加 |
| ④植木剪定個別指導研修 | 4～3月 | 延191人参加 |
| ⑤第3ブロック役員研修
「シルバー人材センターのデジタル化について」 | 新宿区 1月 | 9人参加 |
| ⑥第3ブロック安全就業研修
「シニア世代の健康管理と介護予防」 | 杉並区 11月 | 10人参加 |
| ⑦第3ブロック会員研修「自転車交通安全研修」 | 豊島区 11月 | 8人参加 |

8 広報・普及啓発活動

センター事業の広報・普及啓発活動は次のとおりです。

(1) センターのホームページによるPRその他、次のような広報活動を行いました。

- | | |
|---|-----|
| ①「広報いたばし」センター事業（エアロビクス教室他）参加者等募集記事 | 3回 |
| ②「広報いたばし」入会説明会募集記事 | 3回 |
| ③板橋区施設等にパンフレットを配布 | |
| ④板橋区民まつり・農業まつり・赤塚梅まつり他地域まつりへ参加
(10, 11, 2, 3月) | 延7日 |
| ⑤区庁舎イベントスペースにおける展示販売（7, 12月） | 延6日 |
| ⑥町会掲示板広告スペースへセンター広告を掲載 | 通年 |
| ⑦町会連合会等関係団体会報や、板橋区が発行する情報誌、いたばし暮らしガイド
に広告掲載 | 延7回 |
| ⑧バスラッピングを活用した広告活動 | 通年 |
| ⑨区庁舎内総合インフォメーション並びにシティマップナビタに広告掲載 | 通年 |
| ⑩会報誌「生きいき」の発行 | 6回 |
- ア 第209号4月25日号 イ 第210号7月25日号 ウ 第211号9月25日号
エ 第212号11月25日号 オ 第213号1月25日号
カ 特別号(シンポジウム等イベント周知)

(2) シルバー人材センターの社会的価値を更に高めるべく「生きいきとしたシニアライフを過ごすために」をテーマとした「基調講演・シンポジウム等イベント」を令和5年12月15日に文化会館小ホール及び大会議室にて実施いたしました。

- ・来場者162名（来賓含む）
- ・基調講演（栄養学） 東京家政大学 内野美恵 先生
- ・シンポジウム等講演 ①医療 横田 昌明先生
②運動 久保田 直子先生
③ファシリテーター 高橋 知也先生
- ・弦楽四重奏 ミニクラシックコンサート Quartet INQ
- ・食のイベント 高栄養・高たんぱく食品の試食

(3) 情報公開

ホームページを活用し、公益社団法人として公開すべき情報の他、就業情報、活動情報等を公開しました。

9 調査研究

センターが、今後どのような周知・広報活動を行うことが有用かを把握するためのアンケート調査を実施しました。

- ・調査方法「基調講演・シンポジウム等イベント」会場において、来場者に対してアンケート調査を実施。来場者129名中126件の回答がありました。

10 その他の事業運営の状況

事業運営上のリスクに備えて加入している保険は主に次のとおりです。

主な保険の加入状況

①シルバー人材センター総合保険(継続加入)

ア 保険料 8,860,010円

(保険料内訳：傷害7,736,430円 賠償1,123,580円)

イ 保険適用 (保険金支払いが確定した件数及び金額)

傷害事故 25件 4,641,000円 内令和4年度事故分 4件 397,500円

賠償事故 8件 309,463円 内令和4年度事故分 2件 73,240円

②役員賠償責任保険(継続加入)

ア 保険料 140,000円 填補限度額5千万円

イ 5年度中の保険適用なし

③サイバー保険(継続加入)

ア 保険料 136,010円 賠償限度額1億円 諸経費費用限度額3千万円

イ 5年度中の保険適用なし

11 その他

事務局の状況

令和6年3月31日現在 事務局長1名 その他の常勤職員8名 一般業務職員1名
その他の嘱託職員20名となっております。

事業報告の附属明細書

令和5年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書の「事業報告の内容を補足する重要な事項」はありません。

公益社団法人板橋区シルバー人材センター 会長 吉田 光夫